

魔法のプロジェクト 2022 活動報告書

報告者氏名：阿保孝志朗

所属： 青森県立青森聾学校

記録日 2023 年 2 月 25 日

キーワード：外国語 VOCA

【対象児の情報】

- ・ 学年 高等部 1 年 (16 歳)
- ・ 障害名 聴覚障がい 知的障がい
- ・ 使用した機器 iPad iPhone watch chromebook AI スピーカー Pepper

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
主体的に外国語の学習に取り組む。
- ・ 実施期間 令和 4 年 4 月～令和 5 年 2 月
- ・ 実施者 阿保孝志朗
- ・ 実施者と対象児の関係 学部付き職員

【活動内容と対象児の変化】

- ・ 対象児の事前の状況
 - ・ 重複学級所属
 - ・ 人工内耳、補聴器装用 装用後の平均聴力は約 38 dB。
 - ・ 発音が不明瞭で、手話や指文字を使ってコミュニケーションをしているが分かりづらい。
 - ・ 人と話すのが好きである。
 - ・ ひらがなは読んだり、時間がかかるが書いたりすることができる。50音キーボードで入力することができる。
 - ・ 具体物を使って一桁と一桁の足し算引き算ができる。
 - ・ 、がわかり、時間がかかるがアルファベットを視写することができる。
 - ・ 英語の簡単な挨拶、数唱 (1~10) は発音することができるが想起して書くことはできない。
 - ・ ALT との授業では本生徒から事前に聞いていた内容を教師が英訳したひらがなで書かれた英文を読んで伝えている。
 - ・ 取り組んだことのある iPad の操作を覚えている。

【活動の具体的内容】

○Drop Tap で英会話

自分で伝えたい内容を自分で選択し、相手にわかるように伝えることをねらい DropTap を活用した。

絵カード作り

英単語やアルファベットに親しむことをねらいに実施した。Skitch で友達や教師の名前を英語表記とひらがな表記で入力し、絵カードを作成した。ネイティブの発音に触れさせたかったので、別の iPad のメモにアルファベットで入力し、音声読み上げしたものを本生徒の DropTap で録音した。食べ物や「好き」「嫌い」等の言葉についてはドロップスのシンボルの日本語表示名を別の iPad の Microsoft Translator で翻訳し、英語表記を見ながら入力した。



作成したシンボル

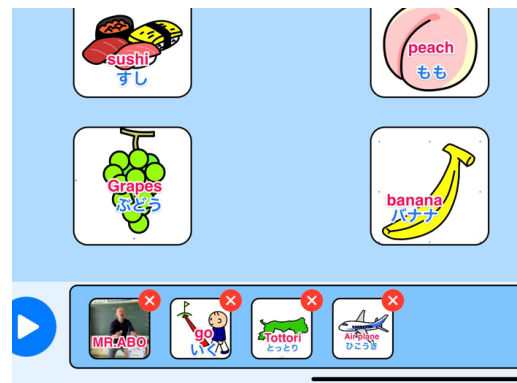
絵カードを並べてコミュニケーション

絵カードを作った後は Drop Tap のセンテンスモードで教師が見本を見せて英文法通りに並べて再生して伝えられるようにした。繰り返し行ったことで英文法の語順で並べ替えることができるようになった。

- ・対象児の事後の変化

絵カード作りについて

絵カード作りには複数のアプリを切り替えて活用しているが、操作を覚え教師に頼らず一人で作成することができるようになった。



活用の様子

入力について

英単語を書いて覚える代わりに①絵カード作成②DropTap のシンボル詳細編集の音声読み上げのためのテキスト③録音用のメモの3回入力することとした。入力する際に「A」(大文字のA)と呟きながら入力するようになってきた。授業時間に作成することができる単語が3語程度から4語程度に増えた。

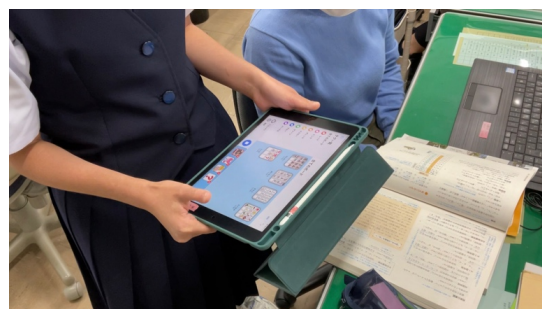
聞くことについて

DropTap のシンボル詳細編集画面で日本語用の Siri の音声読み上げと録音した英語用の Siri の音声読み上げを交互に聞くことでネイティブ発音の違いに気づくことができた。聞いた後は日本語、英語それぞれの Siri の発音を真似て発音して遊ぶ様子が見られた。

絵カードでのコミュニケーション

上記で作成したカードを教師が提示した英文法の配列で並べ自分の好きな食べ物、嫌いな食べ物等を DropTap で再生することができた。再生した後真似て英語で発表することができている。休み時間等に廊下にいる教師や他の生徒に自分から DropTap でコミュニケーションする様子が見られた。また、相手の好きなものを聞き日本語で聞いてから DropTap で英文を作るようになった。

ALT との学習で DropTap を活用し、本生徒が作成した英文で挨拶や自己紹介をすることができた。



英文を作り、コミュニケーションする様子

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

① 聴覚障害があっても聴覚を活用しながらの学習が効果的だったのではないか

iPad の読み上げ機能を活用し、ネイティブの英語を繰り返し聞きながらアプリを操作することで英語に親しむことができた。タップするたびに再生されるので気に入ったフレーズを何回も聞き直す様子が見られた。同様の学習を行っていない他のクラスと合同授業では、ALT の読み上げによる英文カルタ大会を行った際に、ALT が読み上げた英文を他の生徒よりも多くの枚数を取ることができた。補聴システムは現在も他の教科でも日常的に活用して学習しているが、視覚的な支援に加えて聴覚を活用した学習の重要性が示されているのではないかとと思われる。ICT を活用し、保有する感覚を相互に活用させながら学習を継続していきたい。

② 本生徒の発信のツールとして VOCA アプリが活用できるのではないか

授業後や休み時間に DropTap を活用し他の生徒や職員に頻繁に話しかけていると報告を受けている。また、アンケート等で好きな授業は英語と答えていることが多い。「できたこと」「伝わったこと」が自覚できているためであると思われる。

本生徒は人懐っこく人と話すことを楽しんでいる。日常の会話では発音は不明瞭で語彙（手話も含む）の少なさから会話の内容が限定的だったり伝わらなかつたりすることも多い。絵カード作りの際に使用するアプリ操作やアプリの切り替えなどを一人で行うことができている。また、絵カードを作る際に自分でドロップスのシンボルを探すことができる。手話や口話でのコミュニケーションの他に、写真や絵カードを用いて考えを想起、整理し、伝えることで確実により満足度の高いコミュニケーションができるのではないかとと思われる。